

安全データシート

改訂日 : 2022年2月15日

1. 化学品及び会社情報	
化学品の名称	p-ヒドロキシ安息香酸メチル
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	FB0172
2. 危険有害性の要約	
化学品のGHS分類	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性):区分3 水生環境有害性 長期(慢性):区分3
GHSラベル要素	
絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	水生生物に有害 長期的影響により水生生物に有害
注意書き	【安全対策】 環境への放出を避けること。 【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
3. 組成、成分情報	
化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	p-ヒドロキシ安息香酸メチル
慣用名又は別名	メチル=4-ヒドロキシベンゾアート、4-ヒドロキシ安息香酸メチル
化学式	C ₈ H ₈ O ₃
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN: 99-76-3
濃度又は濃度範囲	99%以上
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	(3)-1585
4. 応急措置	
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の診断を受けること。
飲込んだ場合	口をすすぐこと。 直ちに医師の診断を受けること。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材	粉塵の立たない方法で出来るだけ掃き集め、空容器等に回収する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに粉塵を発生させない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な扱いをしない。
接触回避	熱
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
保管	
安全な保管条件	直射日光を避け、換気のよい涼しい場所に密封して保管する。
安全な容器包装材料	ポリプロピレン、ポリエチレン
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度等	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼, 顔面の保護具	適切な保護眼鏡/顔面シールドを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	結晶形粉末
色	白色
臭い	無臭
融点/凝固点	131℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲	270～280℃(分解)
可燃性	可燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	>600℃
分解温度	270～280℃
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水：1g/400mL
n-オクタノール/水分配係数	1.96
蒸気圧	0.07mmHg (25℃)
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
10. 安定性及び反応性	
反応性	情報なし
化学的安定性	通常の取り扱いにて安定。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	日光, 熱
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素, 二酸化炭素
11. 有害性情報	

急性毒性	経口：ラットを用いた経口投与試験のLD ₅₀ 値8,000 mg/kg(JECFA(1966))から、区分外とした。なお、JECFA(1966)には、「マウスのLD ₅₀ 値8,000 mg/kg」と記述されていたが、生殖毒性で引用文献として使用したFood Chem. Toxicol. 40(2002)の急性毒性の項には、ラットのデータとして同じ文献(Drug Stand. 20(1952))が引用されているので、ラットのデータと判断して用いた。 経皮：データがないので分類できない。なお、生殖毒性で引用文献として使用したFood Chem. Toxicol. 40(2002)の急性毒性の項には「本物質を0.2 %含有するアイメイクについて経皮投与試験を行った結果、LD ₅₀ 値は>2,000 mg/kgであった」との記述がある。 吸入：データがないので分類できない。 (粉塵)
皮膚腐食性/刺激性	ヒトについては、「正常なヒト皮膚にはnon-irritating」との記述がある一方、「50人の背中に希釈液を5日間毎日塗布し刺激性を示さなかった場合の本物質の最高濃度は5 %であった」(HSDB(2007))旨の記述がある。動物については、ウサギを用いた24時間Draize試験において「非希釈液でPII=0.67(最高4.0)よりmild skin irritationと評価」(HSDB(2007))と記述されている。以上より、本物質は国連GHS皮膚刺激性区分3に相当すると思われるが、国内では不採用区分につき、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	飽和溶液は眼にmoderately irritating」(HSDB(2007))との記述がある一方、ウサギを用いた眼刺激性試験において「100%濃度では、1日目の眼刺激性スコアが1(最高110)で一過性のslightな眼刺激性」(HSDB(2007))との記述がある。データ不十分なので分類できない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器：データがないので分類できない。 皮膚：ヒトについては、男女各25名に対するRIPT(累積刺激および感作試験)で「No sensitization」(HSDB(2007))との記述がある。動物については、雌雄各5匹のモルモットを用いた接触感作性試験で「no reactions」(HSDB(2007))との記述がある。いずれもList2の情報源のデータであり、この他に明確な陰性データがないので、分類できない。なお、生殖毒性で引用文献として使用したFood Chem. Toxicol. 40(2002)のヒト症例の項に、慢性・再発性皮膚炎の6歳女児に100,000倍希釈液で定量パッチテストを行った結果「positive」と記述されている。
生殖細胞変異原性	生殖細胞を用いたin vivo経世代変異原性試験(ラットを用いた優性致死試験)で「優性致死作用を示唆する用量依存性や時間的傾向は見られなかった」(HSDB(2007))旨の記述があり、体細胞を用いたin vivo変異原性試験(ラット骨髓を用いた染色体異常試験)で「染色体異常は観察されなかった」(HSDB(2007))との記述があるので、区分外とした。なお、in vitro変異原性試験(CHL培養細胞を用いた染色体異常試験)で「非代謝活性条件下では陰性だが、代謝活性条件下では染色体異常が有意な増加を示した」(HSDB(2007))との記述がある。
発がん性	主要な国際的評価機関による評価がなされていないので分類できない。なお、ラットを用いた96週間混餌投与試験で「投与による影響は見られなかった」(HSDB(2007))旨の記述がある。
生殖毒性	妊娠6-15日の雌ラット、雌マウスを用いた経口投与試験で「母動物の生存への影響が見られない用量で、着床への影響および胎児の生存への影響は見られず、また胎児の内臓異常、骨格異常、外表異常の頻度に有意差は見られなかった」(HSDB(2007))旨の記述があるが、500 mg/kgまでしか投与されていない。これは、HSDB(2007)のヒト健康影響の記述「催奇形性も胎児毒性もなく、子宮肥大試験で陰性」で引用文献としているFood Chem. Toxicol. 40(2002)の内容と一致する。さらに高用量での影響が不明であり、雄の生殖機能に関するデータはないので、分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットへの経口投与により致死濃度を求めた試験で「生存動物について毒性、異常行動、肉眼的病理所見は見られなかった」(HSDB(2007))との記述があり、用量は区分2のガイダンス値範囲外であった。しかし、生殖毒性で引用文献として使用したFood Chem. Toxicol. 40(2002)のヒト症例の項には「本物質の経口投与により遅延型過敏反応を示した17歳の精神病患者」の例が記述されているので、分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	プロピルエステルが混在する餌をラットに18ヶ月間経口投与した試験で「ある程度成長抑制が見られたが、病理学的な変化はなかった」(JECFA(1966))との記述があるが、用量は区分1のガイダンス値の範囲内である。高用量での影響は不明なので分類できない。
誤えん有害性	データがないので分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

短期：甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC₅₀ = 36mg/L(環境庁生態影響試験、(急性)1999)から区分3とした。
長期：急性毒性区分3であり、急速分解性に関するデータがないため、区分3と(慢性)した。

残留性・分解性	該当情報なし。
生体蓄積性	該当情報なし。
土壤中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。 空容器の処理を依頼する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	—
品名(国連輸送名)	—
国連分類	—
副次危険性	—
容器等級	—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報	消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規制に従う。
応急措置指針番号	—
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種指定化学物質〔4-ヒドロキシ安息香酸メチル〕 (2023年(令和5年)3月31日まで) 第二種指定化学物質〔4-ヒドロキシ安息香酸メチル〕(2023年(令和5年)4月1日以降)
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき有害物〔施行令別表9〕に該当しない。
消防法	危険物に該当しない。
16. その他の情報	
参考文献	NITE-CHIRP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP) The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II Merck Index 14th.

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。